

麻薬年間受払届の記載上の留意事項

年間受払届には、令和6年 10 月 1 日から令和7年9月 30 日までの間の麻薬の受払いの状況を記載する。

〔計算式〕

$(\text{令和6年 10 月 1 日在庫}) + (\text{卸売業者等からの受入}) + (\text{再利用のための受入}) - (\text{払出}) - (\text{廃棄・事故等による減少分}) = (\text{令和7年9月 30 日在庫})$

1 品名欄

同一品名であっても麻薬含有量の異なるもの(自家製剤を含む。)又は容量の異なるものについては、それぞれ含有パーセント又は容量を明示し、別の欄に記載する。

2 前年 10 月 1 日在庫欄

前年 10 月 1 日時点の在庫数を記載する。

また、前年 10 月 1 日時点で在庫がなかった場合(前年 10 月 2 日以降に免許を受けた場合を含む。)には「0」又は「在庫なし」等在庫がない旨を記載する。

なお、前年度から繰り越した再利用のために入院患者等から譲り受けた数量については別欄に()書きし外数で記載する。

3 受入欄

期間中に麻薬卸売業者等から譲り受けた麻薬の数量を記載する。

- ・ 麻薬業務所でなくなった診療所等の開設者等から譲り受けた麻薬は別欄に記載し、備考欄に譲受元を記載する。
- ・ 入院患者等から譲り受けた麻薬の数量については、別の行に()書きして外数として記載する。
- ・ 麻薬小売業者間譲渡許可を得て、譲受した麻薬の数量については、品名ごとに別の行に()書きして内数を記入する。

4 払出欄

期間中に麻薬取扱者が譲渡等のため払出した麻薬の数量を記載する。

ただし、麻薬廃棄届に基づいた廃棄分、麻薬事故届に基づいた事故分及び譲渡許可に基づく譲渡分は払出には計上せず、備考欄に記載する。

- ・ 麻薬施用者が施用し、又は施用のため交付した麻薬の数量(入院患者等から受け入れた麻薬を再利用した場合を含む)
※入院患者等から受け入れた麻薬を再利用した場合は、その数量を備考欄に記載する。
- ・ 麻薬小売業者が、麻薬処方せんと引換に交付した麻薬の数量
- ・ 麻薬小売業者が、麻薬小売業者間譲渡許可を得て、譲渡した麻薬の数量
※麻薬小売業者間譲渡許可を得て、譲渡した麻薬の数量については、品名ごとに別の行に()書きして内数を記入
- ・ 麻薬研究者が研究のため使用した麻薬の数量

5 本年 9 月 30 日在庫欄

本年 9 月 30 日時点の在庫数を記載し、在庫がない場合には、0 又は「在庫なし」等在庫がない旨を記載する。

ただし、再利用のために患者等から受け入れた麻薬のうち次年度へ繰り越す数量については()書きで外数で記載し、備考欄にその旨記載する。

6 備考欄

- 麻薬廃棄届により保健所職員立会いのもと廃棄した麻薬の数量、廃棄年月日を記載する。
- 事故のあった麻薬の数量、年月日及び届出年月日を記載する。
- 自家製剤(予製)を行った場合、その旨を記載する。
- 入院患者等から再利用のために譲り受けた麻薬を再利用した場合にはその数量を、次年度に繰り越す場合にはその数量を記載する。
- 麻薬小売業者間譲渡許可を得て、譲渡又は譲受を行った場合は、その旨を記載する。